平成２８年 ６ 月２３日

陳情第７２号

芸術文化創造センターは実施設計をベースに平成２８年度中に建設工事に着手するよう求める陳情書

芸術文化創造センターは実施設計をベースに平成２８年度中に建設工事に着手するよう求める陳情書

【陳情趣旨】

去る６月５日の「芸術文化創造センター市民説明会」において、加藤市長が「ここで拙速に事業提案の手法によって整備するということは見合わせることとする」と正式に表明されました。これを受けて「芸術文化創造センターを考える会」は小田原市議会に提出していた「芸術文化創造センターの性急な事業提案方式を一時停止し見直すことを求める陳情書」を急きょ取り下げました。

しかしながら新たな問題が生じてきました。加藤市長は同じく「市民説明会」において「平成３１年度までの建設工事着手を念頭に置きまして、引き続き整備推進をする」との方針を示しましたが、そんなに先送りしてよいのか、ということです。

５月２３日に加藤市長が平成３１年度までに着工すると記者発表し、「建設費の高止まりは東京五輪の手前で一服しているだろう」と予測。また「大型事業の歳出のピークも過ぎる」ことから「期限として定める」と説明したと報じられています。これは明らかに建設工事着手を東京五輪の手前まで先延ばしし、他の大型事業の後回しにすることを念頭に置いているということになります。

入札不調後１年近くかけて検討し、事業提案方式が難しくなったとたんに一般財源の額を後期基本計画策定の中で検討するとして、大幅に先送りしてしまうということは、これまでの経過とあまりに矛盾します。７０億円の予算内で実施設計をベースに小ホールを分離し早期建設する、維持管理費の大幅な削減にもつながる当初の新居設計士案の実現を求めます。

消費税増税が２年半延期された今こそ好機！先延ばしで消費税２％アップは避けるべきです。

即決断しないと、国の交付金（当初約２３億円が今１０億円程）も見込めなくなってしまいます。

今年の秋までに実施設計をベースに見直し入札すれば、７０億円以内で工期２年間、東京五輪前に完成する見込みがあります。それを逃すと建設費の高騰が予測され厳しくなります。市は東京五輪の手前で建設費の高止まりが一服すると予測していますが、その根拠は何でしょうか？五輪関係の工事が終わると、それまで凍結され先送りされてきた他の工事に着手することになるので、東京五輪終了後５年間ぐらいは建設費の高止まりは継続するだろう、というのが建設業界の一般的な見方です。

現在の中心市街地の衰退は、地下街も含め深刻です。芸術文化創造センターの建設が遅れると、中心市街地の活性化も手遅れになってしまいます。

市民会館の老朽化は著しく、事故が起きる心配も大きいです。いつ閉館してもおかしくなく、興行を受けることも不安で出来なくなる状況です。

いつ巨大地震が起きるかわかりません。防災の拠点施設としても早く造る必要があります。

そして何よりも多くの市民が早期建設を望んでいます。実際「芸術文化創造センターを考える会」が取り組んでいる「早期建設を求める署名」も、開始して１か月余りで３，０００名を超えました。

建設を先延ばしすればするほど取り巻く環境が悪化し、造りたくても造れない状況に陥りかねません。残されたわずかなチャンスを逃し、ピンチを招かぬように、今こそ真剣に、一刻も早く建設するよう力を尽くすべきです。そこで以下の陳情をいたします。

【陳情項目】

１、大スタジオは小ホール機能を十分に有しており、大ホールも少人数での使用に対応できる設計で、ランニングコストも大幅に抑えられることから、小ホールを取りやめる方向で大至急実施設計を変更する。

２、大阪の堺市のように予定価格を実勢価格の見積もりによる積算で算出し、入札を行う。

３、実施設計をベースに、平成２８年度中に建設工事に着手することを目指す。

平成28年６月２３日

小田原市議会議長

武松　　忠　様

提出者

小田原市飯田岡195

芸術文化創造センターを考える会

代表　大須　真治　㊞